

アルパック ニュースレター

地域計画・建築研究所



久保商事本社ビル（本文中に関連記事があります）

アルパック ニュースレター もくじ

特集 「ゆとり」の時代の中で

- ・生涯学習から生きがい学習へ…………… 2
- ・京都府立ゼミナールハウスの近況…………… 4
- ・今、病院はサバイバルの時代…………… 5
- ・競馬がトレンド…………… 7
- ・丹波町全住民の感動—新しい町歴史の創造に向かって—…………… 9
- ・太平記の村・千早赤阪村C I 作戦…………… 11
- ・京呉服関連の本社ビルを設計して…………… 12
- ・うまいもの通信⑥…………… 12
- ・みんなで四級小型船舶操縦士免許をとりました…………… 13
- ・一知半解…………… 14
- ・新刊旧刊書評紹介「とべ！おちこぼれ馬“ミルキーウェイ”」… 15
- ・まちかど…………… 16

NO. 46

生涯学習から生きがい学習へ

糸 乗 貞 喜

学から楽へ

文学と音楽という文字について難癖をつける人がいた。一方は「音を楽しむ」となっているのに、なぜ小説が「文を楽しむ」でなく「文を学ぶ」と書くことになっているのかということである。

思うに、文学という書き方でなく「文楽」などということになってたら、日本における純文学と大衆文芸（学・小説）の分離も起きなかったのだろう。文で人を楽しませるのは、ひとつの芸であって、等しく人々の尊敬を集める価値がある。純文学をわかりもしない輩が何をほざくと思われるかもしれないが……。

もうおわかりいただけたと思うが、同じようなことを言いたいために、文楽（学）論を書いたのである。したがって私の提唱は生涯学習でなく「生きがい学習」である。

生涯学習や生涯教育はまことにカタクルシイ。それには二つの理由がある。その一つは、「生涯」とか「学習」とかいった、私どもが日常的に使うことは生涯なさそうな言葉にしたことであり、もう一つは、生涯教育のかけ声と同時に出した「生涯教育体系」とか「生涯学習組織体制」といったような画一的な、統制的響きによるものである。

この響きから一般人は、「オカミ」の価値基準による「しつけ」を感じる。

豊かさの転換の中で

では全くそのような学習は必要ないのかというとうそうではない。現代は豊かさというものに対する価値感の転換期にあるが、それをうまく身につけることが、画一化にならされた我々には難しいからである。

豊かさという価値観について考えてみたい。戦後我々はモノ不足の中から、豊かなモノへのあこがれの中で育ってきた。その象徴的事件が、20年前のオイルショック時のトイレトペーパー事件である。モノの欠乏に対する恐怖心が遺伝子の中にすりこまれてしまっているかのような風景であった。「豊かさ」で連想される言葉を上げてみたい。

- ・モノ、金、高級品
- ・人並のモノ、暮し
- ・ブランド商品——若い人にもそれがあるのは、前世代のモノ不足恐怖心遺伝子のなせる技で、次の世代はブランドものに一種貧困を感じるようになる。

ところが、最近では次のようなことに豊かさが移っている。

- ・時間もち、自由時間
- ・環境——豊かな環境にまで、以前は気持ちがついていかず、自分の家の中にモノを詰め込むことに狂奔した
- ・知識——知恵——素養
- ・コト——モノからコトへ、楽しいコトをすることに豊かさを感じる

そして楽しいコトをする豊かさは、コトの成立が人と人の中で以外にありえない以上、豊かさは楽しい人間関係に収斂する。結論としていえば、豊かさの基礎は「もてる」ことにつきるし、究極的には「もてなす」ことが「もてる」につながるものである。このことは地域や都市についても言える。工場エントツが多いほど豊かであった都市の時代は去って、他所ものを「もてなす」ことのできる都市が、経済的にも社会的評価の上でも豊

かな街とされつつある。

このように価値感が変わる中で、人々を「もてなす」素養や生活の知恵を身につけることが暮らしを豊かにするのであり、それを肩をはらずに楽しく習う場が必要になっている。

生活の知恵のうけつぎ機会

知恵をうけつぐ為の暮らしの環境が大幅に変わっている。

- ・大家族——濃密な集落（町内会）
- ・核家族——希薄な近隣づきあい
- ・個 族——孤立化

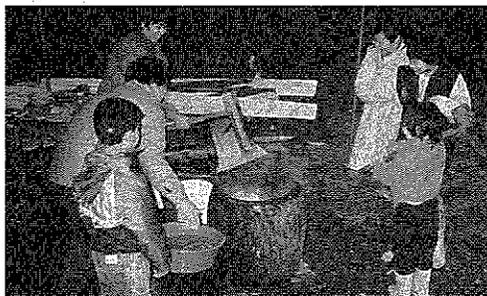
大家族や集落などが、生活の知恵のうけつぎを保証し、生きて自分の子孫を育てることについての基礎的条件が、核家族化の中で失われてきている。今後、個族化（高齢単身、2人世帯及び若い人の単身世帯）が進めば一層問題が拡大する。

現在最も「生きがい楽習」が必要な世代は、どちらかという子供たちである。友達との遊び方、集団のルール（今、学校ではブカツによる階級化と管理化が進んでいて、生きがい楽習に反した方向へいっている）を身につ

鹿の解体



もちつき風景



ける機会がつけられねばならない。そういう意味では、学校教育も日常的に社会からの批判をうけるようにすることによって、「生きがい楽習」へ参加すべきである。

体験的「生きがい楽習」

— 鹿を一頭さばいて、刺身を食べる —

見出しは勇ましいが、私は食べる方専門でさばく方はできなかつた。いきさつを書くと、滋賀県に“どんぐりのなる森を子供の未来に贈る会”というのがあって、その「どんぐり5周年記念宴会」にさそわれて参加させていただいた。この地価の高い世知辛い世の中で、どうしたらどんぐりの森を買ったり守ったりできるのか—誇大妄想のような感もする。しかし、ものごとというものは、およそ誇大妄想への執着が原動力になっている。

とにかく、この人たちの明るく楽しい宴会に感動した。私の役まわりは、さばいた鹿の横に立って、特上の生酒を冷やで飲みながら、さばく卯田さんから生肉をもらって、「しょうが醤油」につけて食べることに、つきたての餅をおろし餅にして食べることに、鹿肉鍋をつくるかまどの火をぼとぼと濡れた（1日中雨が降っていて、テントの下で鹿鍋をつくった）製材くずの薪で炊くことであった。まだ濡れた薪でも火が焚けるぞという気分と鹿の刺身の味に堪能した。

参加者は、小さい子供からおじいさんおばあさんまでの数十人で、その幅の広さ、農家の会場（1軒を開放していただいた）もよかった。鹿をさばいて食べたり、その毛革が血だらけで広げられていても、誰も「かわいそうに」というような変なことを言う人はいなかった。ヒネタ自然保護主義をもたない、堂々たる人たちの集まりであり、私としては「じねん」という思いと重なっていてうれしかった。（九州地域計画研究所／榊じねんプラン 代表取締役 いとのり さだよし）

京都府立ゼミナールハウスの近況

倉本 恒一

1月末に雪の積もり出した京北町の京都府立ゼミナールハウスをしばらくぶりで訪ねる事が出来ました。ゼミナールハウスのホールのバックが窓になっていて額縁の絵のようになっているのを見たいという方を御案内するのが目的でした。ゼミナールハウスはアルバックで設計した施設で、15年前にオープンしています。

館長の田中さんは当初から運営にたずさわり今日まで御苦労された方ですが、今でもいろいろな企画をつくったり、施設に対する心くばりのお話しが参考になりましたので紹介したいと思います。

ゼミナールハウスは当時の学園紛争が相次ぐ中で学者文化人の会や地元等の府民の運動によって京都府が設立したもので、静かな自然環境の中で教師と学生や社会人が起居を共にしながら思索し、研さんする場としてつくられたものですが、最近の利用の内容が変わっているようです。

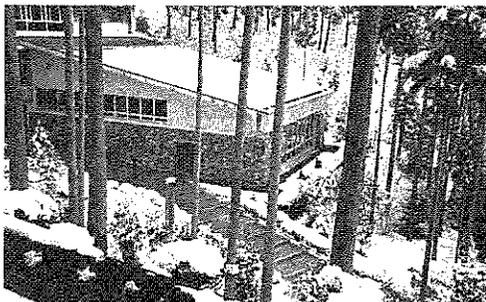
宿泊施設はゼミ室と切離し5～6人の単位のユニットハウスとして林の中に点在する形となっていますが、ベットが2段式になって

いるのが最近不満が多いということでした。ゼミ室での講義よりもむしろユニットハウスで夜を徹した議論が重要と考え、ベットは2段式に計画したのですが、最近では学生や先生はホテルでゼミをするようになり、老人や婦人の利用が多くなっているのだということでした。ちょっと愕然としましたが、それに対応し、館ではいろんな企画を打ち出し利用者が減らないよう苦心されている話を聞かせていただきました。つまりその企画の内容はゼミナールハウスの主な位置づけが生涯学習センターとなっているとのことでした。ゼミナールハウスは開設間もなく第3セクター方式で運営するようになり、利用率は悪くはありません。それには以下のような努力をされています。

館は実質8名の職員で4つの委員会を担当し、事業運営をしています。〔京都国際セミナー委員会〕、〔京都グリーンフィールド実行委員会〕、〔京都緑と森の教室企画会議〕、〔京都から世界にひらく女性と文化のつどい〕等です。

それに「京都府立ゼミナールハウス友の会」

ステージの背後の壁にガラスが使われている



ホールからみた林の景色



の会員への年間行事等の広報やボランティア活動があります。「国際セミナー」では幅広く国際的視点でのセミナーの企画があり、「グリーンフィールド」ではトライアスロン大会やレディスバイアスロン、京都オリエンテeringフェスティバル等が実施されています。

「婦人と文化」は毎年「春の宴」「秋の宴」「ゼミ小ホール」等が催され、「緑と森」では「文化のこころシリーズ」と名打って薬膳、薬酒、薬菓等の教室を開き、京北町におられる専門の先生が案内されて山で野草を採り、食べ方を教えたりしています。ただ最近はこちらにしかないという珍しいのを紹介すると後で荒らされてしまうので、館内に薬草園を作ったそうです。また、京都の中堅所の先生に講師になってもらって各種の教室を開く等、費用を余りかけない工夫の話もありました。

友の会の会費は年間1,000円か2,000円で会報の他、のれんを送ったりするようで赤字だそうです。今800人の会員ですが、大阪の人が多いというのはちょっと残念です。企画の話は面白い話が多かったのですが書きあげたらきりがないのでこの辺にします。もう一つ付け加えるとゼミナールハウスでは当初から

酒が飲めないようになっていました（当社の研修会で利用した時は下の店で酒を買ってきて宿泊棟で飲みました）。知事が代わられてからもだめだということでしたが、館長のごりおして館内にバーをつくる事が出来て客が3倍になったという話です。

もう一つ建物の維持管理の点ですが、ここはいつ案内しても恥ずかしくない程きれいになっています。またそれ以上にいろいろ工夫されています。

当初から、館で京都在住の作家の彫刻が集められ、今では敷地内一円に多数置かれ、「京都野外彫刻の森行き」直行便のJRバスを走らせている程です。

今回の目的の「ホール舞台の額縁に入った絵」については、そう言える程のものか心配でしたが、きれいに枝を払った杉林の向こうは病院が見えないよう竹垣で覆い手前に山と彫刻であしらった雪景色はなかなかのものした。

設備や備品の更新もきちんと行われ、利用者に対する建物を含む環境に心をくばられているのを見てよろこびを新たにしました。

(大阪事務所 くらもと こういち)

今、病院はサバイバルの時代

北条 誠

昨年末、私は20年ぶりの入院を体験することとなりました。日頃、体だけは人一倍丈夫と思っていただけに大きなショックでしたし、厄年は自分には縁のないものと思っていただけに、今だに不安な気持ちです。

知人に入院の話をする、『酒の飲み過ぎ』『仕事のしすぎ』という意見が多く、私が、「医師の診断では『ストレス性高血圧発作だろう』と言われた」と答えると「君がストレ

スを溜めるようには思えない、日頃、言いたい事を言っているのではないか」と言われたりもしました。

それはさておき今回の入院は、私にとっては有意義なものでした。仕事から約三週間開放された（病院まで仕事の相談にくる所員もいたが）ことと、日頃、仕事で地域医療計画や医療施設計画に係わっているものの、これまでは設計者の立場からであり、患者として

医療現場を実体験できたからです。

みなさんもよく御存知のように、近年、①医療費抑制政策・福祉予算の一部切捨て、②地域医療計画にもとづくベット規制による駆け込み病床の急増、③高度医療病院、慢性疾患病院、一般病院といった病院の類型化、④老健施設に代表される生活・疾病上の弱者切捨て、⑤高齢化社会をむかえての疾病構造の変化等々、日本の医療をとりまく状況は大きく変化しています。

医療は、今サバイバルの時代を迎えており、この荒波をどのように乗り越えていくのかが大きな課題となっています。そしてこの戦いは、国民（患者）の支持がなければなりたない事も明らかです。しかし、日本の医療の現状に対する国民の反応は冷やかではないでしょうか。というのも、病院の外来にいけば、数時間またされ診察は数分。検査で院内のあちこちにまわされ、薬をもらうのに数十分～一時間と病院に行くのも一日仕事です。また、入院ともなると殺風景な病室での生活、早い食事、人情味の少ない看護婦、約束事の多い入院生活。加えて、不愛想な医師等々に少なからず不満を感じているのが実情でしょう。

先程も述べたように、今、医療とりわけ病院に対する患者ニーズは大きく変わっています。その背景には、高齢化社会による患者属性の変化や豊かな社会(?)を反映した贅沢化、アメニティー嗜好が、高度医療とともに患者の大きな関心事となっています。

このような社会情勢の変化のなかで、今、病院のサバイバルゲームが展開されています。では、どのような生き残りの方向性があるのか私案を述べたいと思います。

1) 町医者的な地域に根ざした総合病院づくり
一ゆりかごから墓場まで一と言った言葉がありますが、これから益々、競争激化する医

療環境のなかであって、中規模病院の生き残る道のひとつとして、上記のようなテーマが考えられます。人間生まれた時から死ぬまで信頼できる病院（診療所）で治療を受けたいと思うのがすなおな気持ちでしょう。そして親子代々、家族のことにまで気配りのあるホームドクター的な地域住民・患者に信頼される病院づくりが必要でしょう。

2) 生涯健康管理・増進センターづくり

一病は気から一健康は日常的な健康管理から一といわれるように、病気になったから病院に行く、治療するという関係から、地域住民の日常的な健康管理・健康相談、リフレッシュセンターとして、日常的に利用していただける施設機能とサービスが提供できる、環境づくりが必要です。そのためには、これまでのような治療中心の病院機能に加え、ウエルネスやケア機能等を兼ね備えた複合型の新しい病院づくりが必要でしょう。

3) 多様化する医療需要に応えるソフトづくり

一医はサービスなり一といわれる今日、医療に対する患者ニーズは多様化、高度化（わがまま化）しており、高度な医療技術・治療の提供だけでは、患者は満足しなくなっています。様々な患者ニーズに応えられるサービスシステムの導入やきめ細やかな気配り、ホスピタリティーが求められています。

長寿社会や余暇社会、豊かな社会(?)といわれる今日、患者ニーズは益々、多様化、贅沢化していくでしょう。また、疾病構造の構造的変化や心や精神的病の急増は、これまでの病院機能だけでは解決できないことも明らかです。今、新しい視点にたった病院施設計画の見直しが必要となっています。これらの提案は、中規模病院の生き残りの為の一例を示したものであります。

とりわけ、今、国内では医療施設の複合化

や医療機関と企業の異業種提携などのケースが現れています。これらも病院の生き残りの新しい動きといえます。また、在宅ケアや健康管理などの医療周辺のサービスに対する患者ニーズの高まりのなか、企業が医療の持っているノウハウを生かしたニュービジネスの展開でもあります。

これらの先例は、アメリカで数年前から注

目を集めている「メディカル・モール」という新しいタイプの医療施設づくりに見られます。

これら以外にも、病院経営・運営上の様々な問題がありますが、皆様方のご意見・提案を是非、お聞かせ頂きたいと思います。

(京都事務所 ほうじょう まこと)

競馬がトレンドィ

中嶋 秀介

現在、競馬は、大衆レジャー路線を歩んでいます。マス・コミでは、スター馬の誕生を大々的に取りあげますし、ポスターや出版物なども明らかに増えています。キャラクターショップでは競走馬のぬいぐるみが売られています。このようなかたちで競馬が一般市民権を得だしたのは、ここ2～3年のことでしょう。今では、最もトレンドィなデートコースにあげられるまでになりました。

過去の競馬ブームをひもといて見ます。

1964年、シンザン登場。イザナギ景気、オリンピック熱をバックグラウンドに第1次の競馬ブームがおこりました。都市生活者の増加、戦後民主主義のなかで培われた遊び意識の変化があったことも見逃せません。

1973年には、ハイセイコーブームがありました。これは、不況に喘ぐ社会が求めたひと子供づれの家族やカップルがふえている



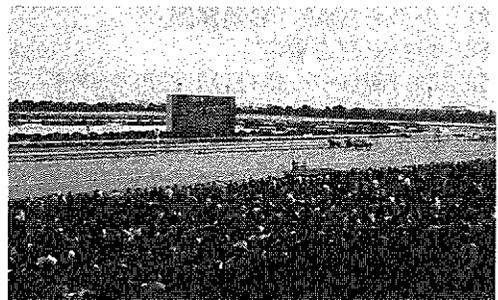
つの夢であった、と捉えられています。しかし、このブームには、競馬＝賭博＝社会悪といった図式を引き裂くだけのインパクトがあったのではないかと思います。

その後、低迷がつづきました。昨年度のダービーでは、ハイセイコーブームで記録した競馬場入場者数のレコード(16.9万人)を、17年ぶりにぬりかえました。時代はかわり、競馬場には若い人、女性が増えました。そして今また、新しい価値観によって遊び方も変わってきました。

レトリックの解説とおとぎ話の世界

競馬にはもともと、トレンドィなファクターがあったのではないのでしょうか。つまり、競馬のもつ多様性・個別性・不確実性・自分参加などといったトレンドィなファクターが、ピクニック気分で出かけられるという、これ

大画面のモニターも設置されている



またトレンド的な容易さの中に融合したのだと考えます。そしてJRA（日本中央競馬会）は、それが容易に認識できるよう、システムを整理し、あるいはその感覚を触発するイメージづくりに力をそそいだのです。

競馬はレトリックの宝庫です。「競馬新聞にまさる小説はない」ヘミングウェイの言葉はあまりにも有名ですが、この小説の結末は自らにゆだねられるのです（競馬新聞は他人の予想を買うものではない）。レトリック解読法は人によってさまざまですが（ときには武豊という語句のみがキーワードになる）、その証として勝馬投票をおこないます。

そしてレース。醍醐味はやはり直線のデッドヒートでしょう。（個人的には第4コーナーの攻防をお勧めします。）大きな馬、美しい馬、時代を超越した勝負服。証としての勝馬投票券が、こんどはお祭に参加するための、あるいはおとぎ話の世界への切符になっているのです。

つまりはこれが、ふるさとなんだよね

寺山修司はエッセイ「競馬場へいく愉しみ」のなかで、競馬場を第2の故郷としています。

その一節。「馬券を買わない人も、たまには競馬場へ行ってみるといい。あの広さは、擬似文明のごみごみした都会生活から私たちを開放してくれる。“ふるさととは帰るところにあるまじや”と歌った詩人（著者註：室生犀星）のながい心を解するのは、それからあとでも充分である。そんなわけで私もときどき、競馬場の緑の芝生に昼寝しに出かけてゆくのであった。」

修司の求めた故郷も、今ではずいぶんと様変わりしています。犀星の思うふるさとも、また、そうなのかもしれません。しかし、このエッセイを読んだころ、ふたりの詩人のようなふるさとをもたない私は、「つまりはこれが、ふるさとなんだよね」と考えたものでした。ここに、もうひとつの人気のファクターがあると思われます。目前に広がる緑、いなく馬。この牧歌的風景は、われわれ都市生活者が永遠に求めつづける、ふるさとのすがたなのではないでしょうか。

（京都事務所 なかしま しゅうすけ）

	日本中央競馬会の動き	話 題	ダ 販 レ ビ 額 （ 勝 億 馬 円 投 ） 票 券
'23	競馬法制定。		
'54	日本中央競馬会設立。		
'64	シンザン3冠。所得水準向上、リビック熱をバックグラウンドに競馬ブーム起こる。		
'73	ハイセーブーム起こる。空前の隆盛を極めるが、同時に競馬公害顕在化。		
'76	TTG(テンポイント・トウショクボーイ・グリーングラス)時代を最後に斜陽。		
'79	「シンザンを超えろ」をテーマに強い馬づくりを推進するが、低迷つづく。		
{	一部競馬ジャーナルでは、競馬会の意識改革の必要性が論じられる。		
'81	ジャパンカップ創設（競馬開国）	スター馬不在の戦国時代	190
'82	レディス・デイを制定	18,500万円の高馬バノカムイヤーデビュー	164
'83	グレード制(レースの格付け)採用を決定	ミスターシービー3冠	168
'84	オーロラビジョン(大型映像ディスプレイ)設置	シンボリドル73冠	144
'85	競馬法一部改正(ナター競馬も可能)	ノンフィクション「気がつけば騎手の女房」	170
'86	イマーゾニア活動委員会発足	メジロモーン牝馬3冠	197
'87	C I実施「JRA」「WINS」	武豊デビュー(59勝は新人最多記録)	212
'88	CLEAN GLEENをテーマに美化運動推進	豊ファバー、映画「優駿」公開	260
'89	ヤングジョッキーステークス設置 若者にアピール	昨年に続き芦毛馬旋風(オグリキャップ)	292
'90	中山競馬場新装(豊・オグリ人気絶頂)	ダービー入場者数19.6万人でレコード	397

～泰さんのあんな京都 こんな京都②～
丹波町全住民の感動

——新しい町歴史の創造に向かって——

山田 泰造

はじめに

南北に長い京都府を縦貫する高速自動車道路は、昭和63年2月に京都市沓掛-亀岡市千代川間15.6Kmが開通し、宮津市に向かって建設工事が進行しています。沿線市町では住民の衆知を集め、色々特色のあるまちおこし計画を発表し、町の未来に夢と希望を持たせようと懸命に努力しています。そこで今回は京都府の中心点に位置する丹波町のこの道路への思いと、世間の人々をあっと驚かせた花博への住民参加について報告します。

京都縦貫自動車道への熱い思い

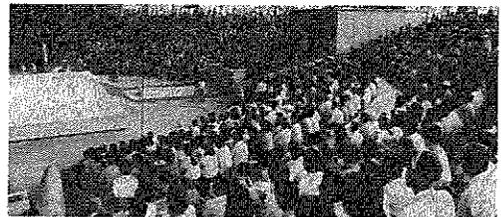
京都市から日本海沿岸を経て下関市に至る国道9号は府下の市町村にとっては生活・文化・経済を支える大動脈であり、不可欠の道路として親しまれ大切なものとされてきましたが、2車線の国道では増加する交通量をさばくには不可能となりました。ようやく住民の強い要望により、48年9号バイパス整備計画の発表、54年用地買収の着手、56年10月八木町地内での起工式、56年以降亀岡-千代川、京都市沓掛-亀岡、千代川-須知と逐時着工、62年高規格幹線道路京都縦貫自動車道として位置づけされ、府下で初めての一般国道の自動車専用道路が誕生、63年2月17日沓掛-千代川15.6Kmが供用開始になりました。かつての交通ネックであった老ノ坂もあつという間にトンネルで通り抜けて京都市内には入れるようになり、人々は新しい道路の持つ大きな力をあらためて認識しました。この自動車道の工事が八木・園部へと進み、山腹に真白な

橋脚を目の当たりに見るに及んで、丹波町の人々の心は他人事ではない、自分達自身の問題であるという気持ちを持ち出しました。丹波町長、山崎高明氏は「1本の道路の出現が『これで暮らせるようになるのだ』と全町民の魂をゆさぶりました。この感動が町民の意識を改革し、暮らしへの希望の灯をともしました。」と深い感慨をこめて語っています。確かに平成4年には丹波町まで開通という実感が、将来への生活設計に大きな夢と安心感を与えたのでしょう。国道9号に対して持っていた親愛感、近く生まれようとする京都縦貫自動車道への深い思慕となり、「魂をゆさぶる」感動となったのです。

花博会場での丹波町民の思い

2年6月15日、この日は「花博」でのデンマーク王国（以下王国）のナショナルデー。

メインホールを埋めつくした丹波町民



丹波町長からツツジの苗木がアナセン大使に贈られた

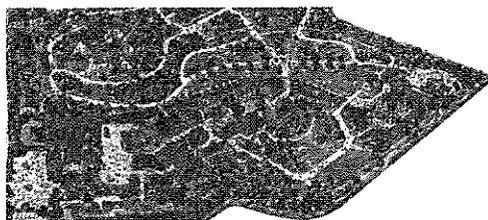


この国と友好関係を持つ丹波町から、人口の40%近くにのぼる3,100人の住民がお祝いにかけつけました。私も取材に向きましたが、午前11時、住民の大集団が目印のワッペンを付けて続々と入場し始め、あっという間に式典会場を埋めつくしました。あたかも王国のナショナルデーを祝う賓客として出席している気分です。式典の初めこそ緊張気味でしたが、やがて民族衣装を着飾った人々のフォークダンスやアンデルセンの童話劇が始まると、すっかりリラックスして、夢中で見とれています。ついで王国の駐日大使と丹波町長とが舞台の中央で、それぞれの記念樹ブナの木とツツジの木を交換し、固い握手を交わした時全員の感激は最高潮に達し、割れんばかりの拍手が鳴りやみませんでした。堂々たる体格の町長が、長身の駐日大使になら見劣りするところなく対等の立場で悠然と振る舞っている姿をこの眼で見た出席者は深い感動にひたっています。3,100人の眼の底に焼き付けられたこの光景は、未永く町民の自慢話として語りつがれるでしょう。

続いて大使の挨拶に「王国としては様々な不安があり参加に迷っていたのですが、丹波町から友好的なプランのご提案があり出展にまでこぎつけました。〔中略〕最後に間もなく京都に誕生する『京都デンマーク公園』はわが王国が日本で唯一最大の窓口として全面的に応援させていただく拠点となります。」この異例とも思われる感謝の言葉。一般的にみて西欧の由緒ある立憲君主国の代表が府下の一地方自治体である丹波町に、単なる友好関係をはるかに超える互惠・応援を町民の前で約束されたのです。

人々が去ってガラとした会場でわたしは一人「どうして丹波町と王国とがこんなに深く」と感慨にふけていました。町と国との

京都デンマーク公園 完成予想図



深い交わりとしては、和歌山県串本町とトルコの友好関係ぐらいいか記憶にありませんでした。これは明治23年9月16日串本町沖で沈没したトルコ軍艦（乗組員約650名）の乗員救助に、町民が生命の危険も顧みず舟を出し、100名を救助（死者540名）した事の100周年として記念の式典が平成2年6月串本町で開催されたものです。本会場での大使を始めとする王国の人々の態度には、町に対する感謝と友好の気持ちがにじみでており、王国として余程の嬉しさがあつたのでしょう。

新しい丹波町時代にむかって

丹波町は明治以来、京都農牧学校の開校、民間飛行場の開設、京都競馬場の誘致といった先進的な事業を次々と開始し、町の歴史に新しい一頁を残しました。そして平成の時代に入り、王国と深いつながりを持ち、国際的な感覚でまちづくりを計画しています。町長から生活先進国としての王国に学び、見習うべきところは進んで取り入れ、特に福祉・農業面と景観・環境面で王国に近づきたいと極めて積極的な姿勢を伺いました。

去年、町役場に参りますと、庁舎の正面に「新丹波町時代に向かって飛躍」と書かれた横断幕が目飛び込んできました。これぞ町の新生への決意を示すものであり、同時に花博での町民3,100人の感動、ひいては全町民の感動をもとに、『新しい丹波町の歴史の創造』に向かう強い意欲を表明するものであると痛感しました。

（京都事務所 やまだ たいぞう）

太平記の村・千早赤阪村CI作戦

馬場正哲

大阪の「村」

地方での定住環境の整備は東京一点集中の時代背景の中で、ますます重要な課題となっています。大阪府で唯一「村」にこだわってきた千早赤阪村でも流動化する社会環境の中で、自律し誇れる「むら」の確立が問われています。

太平記の村

折しも、NHK大河ドラマ「太平記」の放映がスタートした本年は、この「村」にとってその存在を全国にアピールする最大の好機です。これは千早・赤坂の戦いなど歴史に名高い智将楠木正成ゆかりの地として、新しい時代背景のもとに、新しいイメージを打ち出し、これを弾みに自律する村民の誇りとアイデンティティづくりにつなげる大きな好機でもあります。

CI大作戦

村では「ふるさと創生事業」で“自ら考え自ら実践する地域づくり”として千早赤阪村CI計画に取り組みました。CI計画は視覚をとおしてむらのイメージや目標像をつくりだす行動計画です。村の特徴の表現として「金剛山」の自然と智慮・人格の人「楠木正

成」を中心とする歴史・風土を強調、これをアイキャッチャーとしてマーク化し、CIの柱とすることとしました(写真1)。

また、太平記対応として「太平記の村」を当面のサブタイトルに、名刺(写真2)・観光パンフレット・のぼり・はっぴ・TシャツなどにCI展開をしています。

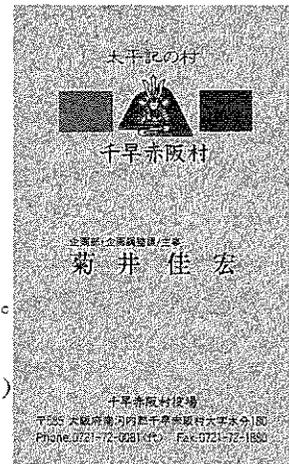
実戦から村づくりへ

計画は合意づくりそのものです。昨年の花の博覧会「千早赤阪村デー」で、このCI作戦第一弾を展開(写真3)し、村民の納得形成を図りました。現在、太平記ブームでの来訪客への対応として、案内板・標識・観光地整備などに追われています。CI計画は単なるビジュアル展開が目標ではありません。地域の生きた活動を創り出すことが大切です。このことが草の根の観光地づくりにつながります。今後が期待されます。

(大阪事務所

ばば まさあき)

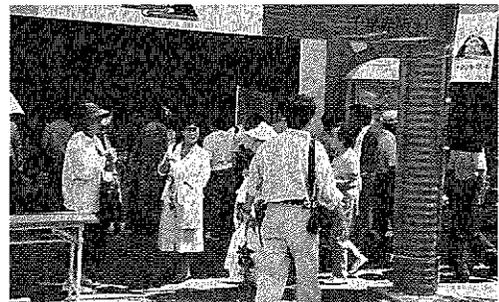
名刺(写真2)



マーク(写真1)



花の博覧会(写真3)



京呉服関連の本社ビルを設計して

朝日利昭

久保商事本社ビル（京都市）の建替のお話を伺いに久保社長と企画室長に初めてお会いしたのが2年半程前でした。まず、迷路の様に入り組んだ旧本社ビルの調査を手始めに計画設計に1年余り、工事期間に1年間費やして、昨年夏に竣工しました。鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上8階、約2,300㎡の規模の京呉服の小物を中心に扱っている企業の本社ビルです（同時期に近接して別館も竣工しています）。

旧本社ビルが取引先の呉服問屋が多い室町通りと職人さんが多くお住まいの大宮周辺の中間の堀川蛸薬師という商売の上では恰好の場所に立地していますが、周辺の町並みは町家やマンションが混在し、特に堀川通りでは近接して高さ31mのマンションが立地しており町並みはデザイン的な調和がみられませんでした。

一方、久保商事は京呉服の小物という日本の伝統的品物を扱いながら、世界的視野で新しい業務展開を図っている企業であり、これらを踏まえた上でこの企業の姿を具体化する必要がありました。そこで、幾度かの打合わせの中で、ドイツ南部の歴史的町並みをモチーフにして素材や色調は京都市的な雰囲気を意識しつつ、京都市的なものとヨーロッパの歴史的町並みの統一を意識したデザインとなり、その結果昨年の京都デザイン大賞の入選をいただくことができました。

建物が完成していつも思うことですが、この建物も久保社長、企画室長並びに久保商事の社員の方々と工事を担当して頂いた戸田建設の方々（特に丸橋所長には色々と無理難題を言いましたが）の熱い思いがあって初めて出来得たものと感じるとともに、この建物が皆さんにいらわれて長く生き続けて欲しいと願ってやみません。

（京都事務所 あさひ としあき）

うまいもの通信⑥

わがふるさと明石の海産品

木村 健

故郷の明石から離れて暮らすようになって6年が過ぎようとしている。帰る度に風景は変わっていくけれど、僕の心象のふるさとの風景は、いつまでも幼い頃に見た遠景のまま、美化されて残っている。

明石の漁港には、前の海（明石海峡や播磨灘）の採れたての魚が運ばれてくる。セリは早朝だけでなく、お昼ごろにも行われ、セリ落とされた魚は「昼網」として魚屋さんの店頭並ぶ。夕御飯のおかず、さっきまで海で泳いでいた魚が出るシスうテムなのである。

JR明石駅に近い魚棚（うおんたな）商店街にはたくさんの魚屋さんが集まっている。威勢のいい魚屋のオッサンの声、荷物を運ぶ自転車のベルの音、お茶を煎る匂い…。

明石と言えば、鯛や蛸が有名だが、僕としては「焼穴子」を押したい。前で採れた穴子を備長炭で焼いたものが、商店街のあちこちの店頭並んでいる。「焼穴子」の専門店もあるくらいで、前の日から頼んでおけば、朝早くに焼いておいてくれる。「焼穴子の箱寿司」がまたおいしい！

海のない街で暮らしていると、時々無性に海に会いたくなる。少し暖かくなったら、海を眺めに行こう。

（京都事務所 きむら たけし）

みんなで四級小型船舶操縦士免許を
とりました
水谷省三

京都事務所の若手も含めた所員9名で四級船舶免許の国家試験を受験しました。

船舶免許は一級から四級までの階級に分かれており、四級船舶免許は全長12m以下、総トン数5トン未満の船舶、例えばクルーザー、小型モーターボート、マリンジェット等を操縦することができます。また、操縦できる範囲は平水区域及び陸域から5海里以内(約9km)の水域と限られています。(因みに陸から9km以内の水域を伝っていけば本州一周が可能です。)大半のマリンレジャーは、この四級船舶免許で十分楽しめるため『海の普通免許』とも呼ばれています。

最近ではマリンレジャー人口が増加し四級船舶免許を取得しようとする人も増えてきており、昨年一年間の京都での受験者は一万人を越えたといわれています。



試験内容は身体検査を始めとして筆記・実技試験が行われ、その総合点で評価されます。身体検査に合格すると、学科試験が行われ、一般常識、船舶概要、法規等、操縦に必要な

ことについて出題されます。実技試験は、二人一組で行われ、モーターボートの操船技術だけでなくロープワークや口頭試問等、船を安全に運航するうえで必要な知識・技術の両面にわたる試験が行われました。実技試験ではモーターボートの操縦をするときに、軍隊式?の口頭確認や、指差し確認(例えば、『救命ブイ投下!』『船首係留よし!』等)を言わなくてはならず、最初のうちは慣れる事ができませんでしたが、試験前に皆で勉強会を開き口頭で問題を出し合っていたときには、『エンジン投下!』などと冗談が言えるほど余裕ができました。普段にない盛り上がりもあり、楽しく試験勉強ができて、今年1月に全員念願の免許が交付されました。

(京都事務所 みずたに しょうぞう)

お知らせ

『上町台地水巡り一環境再発見ウォーキング』へのおきそい

彼岸の中日に上町台地を歩き、四天王寺西門に沈む夕日を見る集いが、昨年の春分の日、秋分の日が続いて、今回は大阪市主催の環境再発見ウォーキングモデル事業の第1回として開催されます。以前にも本誌でご紹介したもので、今回もアルパックがお手伝いしています。今回のテーマは“水”。参加御希望の方は、下記まで申込方法をお問い合わせ下さい。

大阪市環境保健局環境部計画調整課
計画管理係 西山主査 TEL06-208-9872
又はアルパック大阪事務所 畑中まで

編集局より

- ・「ゆとり」とか「遊び」が、新しいビジネスや地域づくりにつながるような時代になってきました。今回は、そんなあたりを特集としてみました。
- ・年度末が近づいてきて、「ゆとり」がなくなりつつある中で、時間をさいて編集をしましたが、いかがだったでしょうか。ご意見をいただけたら幸いです。

一知半解
 ハワイのリゾートに関するデータ
 三輪 泰司

“ハワイに吹き荒れる「茅」の風” - ワイキキのホテル約20の内8割が、ここ3年間に日本資本によって買収されたそうです。日本人観光客は、1980年には65万人、87年に100万人を越え88年・135万人、89年・150万人90年は180万人くらいでしょうか。今やハワイは日本のリゾート地になった観があります。ではハワイのことをどれくらい判っているのか、実は何も知らないことに気がきました。そこで、カテリナ・ナガミネ嬢（元所員）とジョン・タナカ君の結婚式参列を口実に行った機会に、ちょっと調べてみました。

〔観光産業〕 Hawaii Visitor Bureau の統計によりますと Visitor Industry のデータは下表のようになっています。Westbound とは所謂西半球のことです。1987年、その来訪者は初めて前年比 2.2%減少しました。平均滞在日数も、1960年代半ばから漸減しています。

East/Northbound - その85%は日本人 - の滞在日数は西の半分。4泊5日というのが日本式リゾートのパターンのようです。

1987年の年間延べ滞在観光客をこの平均滞在日数から推計しますと、約 5,000万人・日となります。

観光客 1人 1日当たりの消費額は、平均約

\$ 132 となりますが、日本人は \$ 366 でトップだそうで、しかもそれはここ5年間に61%伸びているとのこと。従って滞在日数で13.5%の日本人が、消費額の37.4%程を占めていることとなります。

〔経済構造〕 ハワイ州の総生産額は \$ 198 億。内観光客消費は \$ 66億で33%。国防関係 \$ 22億、その他 \$ 25.7億と連邦政府の支出への依存が特徴。連邦政府の年間1人当たり支出は \$ 4,394 で全米8位です。標準世帯の年間収入 \$ 32,900も50州中8位。農業生産は砂糖・パイナップルなどですが \$ 0.6 億で減少傾向です。州政府の歳入では \$ 105 億を越える小売への税（4%）の依存が大きいです。（1987年度）

ハワイは州民所得が比較的高く、失業率も3.8%で全米43位ですが、物価も高いのです。ホノルル市の食料品価格は、主要都市平均の26.6%も高く、全米第1位です。建設資材も殆ど移入・輸入に頼らざるを得ないのです。

〔人口と土地〕 1960年641,500人であった人口は、1987年には1,082,500人に増えました。州の総面積は 4,112,388エーカー。岩礁などを除く利用可能な面積の内、38.2%は連邦・州有地。民有地の37.5%は6つの大法人によって占められ、事実上売買可能な土地は1/4です。

（代表取締役会長 みわ ひろし）

Year	Total Number of Visitors	Westbound	Eastbound and Northbound	Average Daily Census	Average Stay * (Days)	Total Visitor Expenditures	Number of Hotel Rooms
1960	296,517	250,796	45,722	11,797	16.9	\$ 131 million	9,522
1965	686,928	567,218	119,710	17,991	11.9	225	14,827
1970	1,746,970	1,377,756	420,835	36,943	9.9	595	32,289
1975	2,829,106	2,207,417	621,588	66,308	10.6	1,360	42,648
1980	3,934,504	3,046,132	888,372	96,470	11.0	2,875	56,769
1985	4,884,110	3,708,610	1,175,500	116,700	10.7	4,900	66,308
1986	5,606,520	4,257,200	1,349,320	132,910	10.5	5,600	66,318
1987	5,799,830	4,204,010	1,595,820	134,270	10.1	6,600	69,012
1988	6,100,000					8,300	70,272

* Westbound only

SOURCES:Hawaii Visitor Bureau

新刊旧刊書評紹介

舟崎克彦著 偕成社刊

「とべ！ “おちこぼれ馬” ミルキーウェイ」

紹介 池田さちよ

『目に力があり、目がよく語る馬（目配りがきく一視野が広い）だ、と澤井さんはいいます。障害に向く馬だと。』澤井さんがミルキーウェイに出会った時の第一印象です。最近、私たちの生活も電話やファックス等の普及で相手の目を見つめて話す機会が少なくなったようです。お互いの目を見て話をする、言葉以上にもっと理解が深まるのではないでしょうか。

この本は、昨年11月に第3回目のじねんシンポジウムで講師をしていただいた澤井孝夫さんから、シンポジウムの後送っていただいた、わたしのノンフィクションという子供むけの本です。幼い頃から動物好きで、動物相手の仕事をしたいという夢を実現した澤井さんと、血筋のいい名馬でありながら、競馬で生き残れなかった馬が、オリンピックという桜舞台へ出場した話です。

お話しによれば、一般に馬は人に乗られる事が非常に嫌いな動物だそうですが、その中でも、特にこの本の主人公のミルキーウェイは、人に乗られるのが嫌いな馬だそうです。人に触られるのも嫌いなほど神経質な馬だそうです。

馬に乗るということは、馬にとってマイナスから出発していることであり、マイナスをどれだけ少なくするかが馬術だそうです。一度人に乗られると、その部分の筋肉が固まってしまうそうです。ですから下手な人または、素人が無理に乗るとあちこちの筋肉が固まってしまい、早く駄目になってしまうそうです。人が馬に乗った時、馬は何を感じるか、自分をどれだけ理解しているか、ということが、人間の5歳位の知能指数を持った馬と接する

時のポイントになりませう。無理やり従わせようとすると反抗します。馬は自然の動物だから、馬にとって一番良い状態は、牧場などで自由に走らせておく事だそうです。

馬のことを本当に理解し、愛情を持って馬と接している澤井さんだからこそ、ミルキーウェイものびのびとオリンピックに出場出来たのでしょう。

今、個性の時代、ゆとりの時代だとよくいわれます。21世紀になればますます強調されていくことでしょうか。個人の意志、というものが仕事を含めて大切にされていく時代になってくることと思いますし、またそうでなければ社会生活が成り立って行かなくなってしまうでしょう。

澤井さんと馬との交流は、お話しを伺っても本を読んでも、人間社会に大変共通していると感じました。嫌なことを無理やりやらせたり、無理に従わせようとすると、性格も萎縮してしまい延びる芽も摘まれていってしまいます。私達の生き方にも大いに関わってきている問題だと思います。

（※私が事務局のおてつだいをしておりますじねんシンポジウムは、(株)じねんプランの主催で、じねん（自然）にこだわり、自然をテーマにして昨年4月から始めているものです。）

（アルパック・インターナショナル
いけだ さちよ）



まちかど

景観形成要素としての生産緑地

～ヨーロッパ視察旅行にて～

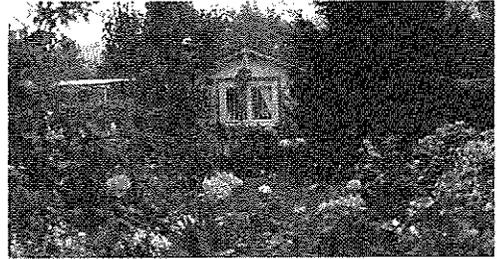
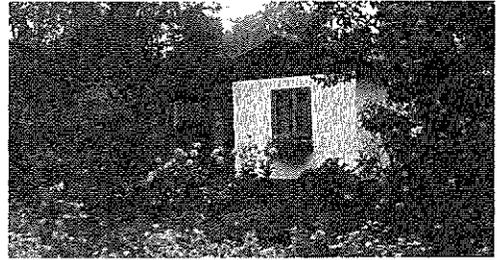
中根 博一

新婚旅行コースとして有名なロマンチック街道（ドイツ）は、抱いていたイメージと異なり街道の両側は丘状の農地や放牧地が続き、集落が点在しています。単調ではあるが美しい景観を形成しており、この美しさを支えているのは手入れのいきとどいた農地や放牧地、果樹園、集落周辺の緑です。古来、日本においても、田畑や果樹園、竹林は生産の場であると同時に「田園風景」や「里山風景」を形成する重要な景観要素であり、生産活動により景観が維持されてきたと言えます。イタリアの都市計画では土地利用計画において、経済面からだけでなく、景観形成面から生産緑

ドイツの田園風景



クラインガルテン



地の規模や配置等を考えられており、ヨーロッパの多くの国でおこなわれている市民菜園（クラインガルテン）や農村セカンドハウスは都市や農村の景観形成と景観維持面からみても有効な施策であることを痛感しました。昨今の日本を考えると、リゾート開発や減反政策等による生産緑地の荒廃や景観破壊が問題となっていますが、「リゾート環境づくり」にしる「まちづくり」にしる快適な環境の形成と維持という面で、経済面優先でない生産活動と環境（景観）形成を一体として捉える視点が必要ではないでしょうか。

（京都事務所 なかね ひろかず）

アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 京 都 事 務 所	☎600	京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764
大 阪 事 務 所	☎540	大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBPプラザビル15階)	TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	☎460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225
東 京 事 務 所	☎160	東京都新宿区新宿2-5-16 (霞ビル401号)	TEL (03) 3226-9130(代) FAX (03) 3226-9560
九 州 地 域 計 画 研 究 所	☎810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673
(株)アルパックインターナショナル	☎540	大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館9階)	TEL (06) 943-7016 FAX (06) 943-7026
(株)都市居住文化研究所	☎604	京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 (朝陽ビル4階)	TEL (075) 252-2231 FAX (075) 252-4417